

白井中学校だより

編集・発行
佐倉市立
白井中学校
〒四八九・五六三五
第五号

不易と流行

校長 澤田 法義

連日のように熱中症警戒アラートが発表され、猛暑に見舞われた夏休みでしたが、9月1日から生徒たちの笑顔が学校に戻ってきました。生徒たちの元気な声が戻ってくると、寂しかった校舎が息を吹き返したように感じます。やはり、学校の中心は生徒たちなのだと思えます。

コロナ感染症の扱いが5月から2類から5類に移行され、今年の夏休みは、高校野球、花火大会、夏祭り等、内容を少し変えながらも開催された行事が多く、いつもの夏らしさももってきたように感じました。テレビの画面や新聞等の活字を通してですが、夏の風物詩と言われる行事から、地域の「郷土愛」に心を動かされた場面がたくさんありました。

日本の花火大会の起源は江戸時代で、飢饉や疫病の死者の弔いとして始まったそうです。佐倉市では、4年ぶりに従来の形で花火大会が開催されました。佐倉の花火大会は、昭和31年に「佐倉樋之口橋納涼大会」として始まり、昭和41年に「印旛姫の宮奉納花火大会」と名称を改め、昭和44年に県内初となる二尺玉4発(重さ60kgでスカイツリーくらいの高さ約600mまであがる高さで、当時は関東最大)を打ち上げ、それが今でも佐倉の花火大会の伝統になつていそうです。そして、昭和53年に「印旛沼花火大会」、平成元年に「印旛沼国際花火大会」と名称を改めますが、様々な問題により、平成17年に、一度中止となつてしまいました。しかし、平成19年から「佐倉市民花火大会」と

《生徒数》

1年	96	名
2年	120	名
3年	114	名
計	330	名

※発行日現在

意を感じました。このような郷土を大切にしている行事等は、きつとこれからも続いていくのでしよう。

さて夏の甲子園、全国高校野球選手権大会は、神奈川県代表の慶應義塾高等学校(以下慶応高校)が第2回大会以来107年ぶりの優勝で幕を閉じました。私は、伝統校で、さぞ丸刈りで昔ながらのチームかと想像していましたが、野球部の雰囲気は真逆でした。慶応高校の森林監督が3月の春の選抜大会の後、取材で語った言葉を紹介します。「ここにこしながら楽しくやっているのでしょと思われがちですが、そこは誤解です。やはり、スポーツは勝利を目指すことが第一でなければ、レクリエーションのようなおかしなものになってしまいます。日本一を目指し、そこにふさわしいチームになるという大きな目標は変わりません。そこを達成した先に高校野球の常識を変えていきたい、とか、いろんな目標を果たすために日々を励むということです」また「目指すべきものは他の高校と同じですが、勝利に至るまでの過程とチームの歩みを重要視しています。「勝利至上主義」ではなく「成長至上主義」であるべきです」と語っていたことが印象的でした。大きなうねりとなつていくことでしょうか。慶応高校野球部の部訓をいくつか紹介します。

- 日本一になろう。日本一になりたいと思わないものはなれない。
- Enjoy Baseball(スポーツは明るいもの、楽しいもの)
- 礼儀正しくあれ。どんな人に対しても、どんな場にあっても、通用するのは人間性。一人

して新たに生まれ変わり、現在に至ります。私も少し花火を見ましたが、中学生のボランティアの方をはじめ、花火大会を成功させようと支えていた方々の心意気や、誇りを持つて市の行事を守つていく人々の郷土を愛する熱

一人の人間性が慶応義塾の評価を決める。挨拶は人との最初の勝負。

○自分一人で生きていけると思うな。自分一人で野球をやっているとと思うな。周りの者に感謝の気持ちを持って。感謝の気持ちは「ありがとう」世の中にそれほど心伝心はない。言葉は使つてはじめて活きる。

○時間厳守。組織が成り立つ、人の信頼を勝ち取る最大の武器。

○グラウンド、用具は大事に。最後に神様が微笑んでくれる。

○今の自分を許すな。自分のプログラミングが出来ない人間が負ける。

これからも、白井中の生徒たちが、将来にわたつて自分の目標を見据え、郷土を愛する心、不易と流行を大切にしていく心を育んでほしいと願っています。

※不易と流行:「不易」は、いくら世の中が変わつても変わらないもの、変えてはいけないもの、「流行」とは世の中の変化とともに変わっていくもの。

◇いじめ防止サミット
佐倉市では、毎年、子供たち自身から「いじめ防止」を発信していくために「佐倉市内の各小中学校代表一名が参加して、「佐倉市いじめ防止子供サミット」を実施しています。

今年度は、8月4日(金)オンラインで実施し本校からは、生徒会役員の2年生が参加しました。

9月1日(金)の全校集会で全校生徒に参加報告をしましたので、ご紹介いたします。

「第九回 佐倉市いじめ防止サミット」を終えて

私は、八月四日に行われた、「佐倉市いじめ防止子供サミット」にオンラインで参加しました。このサミットの目的は、いじめのために、「学校に行きたくない」「登校できない」などと悩み、苦しい思いをする児童生徒を一人も出さない、という考えから開かれました。このサミットは今年で九回目となり、今年のテーマは「人間関係と言葉」についてでした。

皆さんも、こんな経験があるのではないでしょう。友達や先輩・後輩と言葉を交わす時、うれしくなったり、楽しくなったりすること、また反対に悲しくなったり、嫌な気持ちになつたりすること。具体的にそれぞどのような言葉があるのか、そしてそれらの言葉はなぜ出るのかについて話し合いました。話し合いは、小学生、中学生別に8グループに分かれて行いました。

私達の班では、人をうれしくさせたり、楽しい気持ちにさせたりする言葉は、「いいね」や「ありがと」など、他人を認める言葉である、またその言葉を相手がうれしくなるタイミングで言つてあげること、という意見があがりました。反対に人を悲しませたり、嫌な気持ちにさせてしまつたりする言葉は、軽い気持ちで口に出してしまつた悪口やついライラしてしまつた時の一言、という意見が出されました。

私はこのサミットに参加し、毎日使う「言葉」だから、もっと丁寧に使うべきだと気づきました。無意識にいじめにつながつてしまつた言葉を発していないか、皆さんもこの話をきいて少しでも考えてもらえれば、と思います。私達の臼井中学校でいじめによつて悲しむ人、苦しむ人が一人も出ないように、言葉によつて良好な人間関係や、過ごしやすい空間がうまれることを願つています。

最後に、私達の班が考えたスローガンを発表します。

『いいね』の言葉は認める言葉 みんなちがう自分もひとも
このスローガンには、「人は一人一人違うのは当たり前で、その場の空気に合わせてネガティブな発言に同意したり、発したりせず、人を傷つける言葉ではなく、人を認め、励ます言葉を使つていこう!」という思いをこめました。

◇佐倉市平和使節団

今年度、佐倉市平和使節団に生徒会役員が二名参加しました。

9月1日(金)の全校集会で全校生徒に参加報告をしましたので、ご紹介いたします。

令和五年度佐倉市平和使節団に参加して
2年 生徒会役員

本年度は長崎の平和記念式典に参加する予定でしたが、台風のため、八月九日、佐倉市立美術館において、長崎の平和記念式典の中継を視聴しました。その後、三名の被爆者や二世の方々のお話を聞きました。被爆者二世とは、親が広島または長崎で被爆した方々です。その後、夢咲くら館に移動し、市内の中学生の代表生徒達と、平和についての話し合いをしました。

まず、平和式典中継では、被爆者の方々の、二度とこのような辛い事が起こらないようにという強い思い、訴えかける姿が印象に残りました。その後の講義では、日本は被害者でもあり加害者でもあることや、瓦礫の下敷きになつた母親を助けたくても母親に逃げなさいと言われた少年の話なども聞いて、そこで失われた命があつたことを改めて思いました。また、広島被爆者の方から直接お話を聞いて、戦争のことを伝える強い使命感を感じました。「自分のためではなく、他の人のために何かをしなさい。」

爆者二世の方のお話では、一万発もの核兵器がこの世界に存在することを、自分の目で感じて驚くことが大切であることを教わりました。また戦争に限らず、心の傷は一生残り、深い後悔をするので、人を傷つてはいけません。深い後悔も感じました。その後市内中学生たちとの話し合いをし、語り続けていくことの大切さや、過去に起こつたことは忘れてはならないが、核兵器の怖さを多くの人々が知らないことの問題、命とは私達が使える時間であること、などの意見を発表しました。

平和な世界を実現するために今から私達にできることは、少しでも戦争の話に耳を傾け、戦争の恐ろしさや愚かさを知り、考え、意識を持つこと、今の生活を当たり前と思わないこと、家族を含め、周囲の人と助け合い、感謝することだと思えます。

「平和な世界へ」

2年 生徒会役員

佐倉市平和使節団に参加して、「本当の平和とは何か」ということを学ばせていただきました。平和使節団に参加するまでは、テレビで流れる戦争の映像や、原爆投下七十八年という言葉

を聞いても、どこか他人事で、自分には関係のない事、そう思つていました。

長崎市長の鈴木史郎さんの、「平和のバトンを未来につないでいく」という言葉を聞いて、自分達は何ができるのだろうか、と考えました。他の国や地域では、戦争がまだまだ絶えず、人々が銃を持ち、争いが絶えませんが、核兵器を持った国は、自分の国の安全を保とうという考えを持ち、持たない国を核で脅したり、攻撃したりしています。これでは、何の解決にもなりません。核兵器や武力で、解決するのではなく、お互いが耳を傾け、対話することができたら、少しずつ平和が訪れるのではないかと思います。また、戦争をしている人達にも、苦しんで亡くなつてしまった人達にも、家族がいます。家族を失い、残された人達にも、一人一人が、相手の事を思いやる事ができたら、悲しみや争いは減つていくと思います。

今回、平和式典の中継や、講義、講話、グループワークを通して、まずは、自分が身近な人を大切にできないければ、平和について伝えられないと思ひました。何気なく言つてしまつた言葉や、行動で相手を傷つけていたかもしれない心の傷は一生残ります。自分も、相手の立場になつて考え、身近な人達を大切にしていきたいです。十代や、若い世代が、今すぐに、何かできることはないかも知れませんが、助け合う気持ちや、感謝の気持ちを持ち続けることができたら、世界平和の第一歩になると思ひます。命の重さは、皆一緒です。自分自身に与えられた命と時間を大切にしていきます。また、核兵器のない世界になることを祈り続けていきたいです。

◇9月の予定

※9月4日(月)～6日(水)テスト前諸活動停止

※9月7日(木)～8日(金)第2回定期テスト

※9月8日(金)いじめアンケート 一斉下校

※9月12日(火)学級優先日

※9月14日(木)一斉下校

※9月19日(火)3年実力テスト

9月分諸経費振替日

※9月28日(水)一斉下校

※9月28日(木)一斉下校